

第1学年国語科学習指導案

日 時 平成17年9月28日(水)5校時

場 所 1年A組教室

学 級 1年A組(35名)

指導者 齊藤奈津子

1 単元名 四 暮らしを見つめる 「魚を育てる森」(光村図書 1年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元「四 暮らしを見つめる」は、第1学年では2回目となる説明的文章の読み取りを中心とした単元である。「二 自然の不思議を探る」での学習を生かして、説明的文章を読む力を確かなものとすることができ、更には「書くこと」の学習との関連を十分に図ることで、総合的な力を身につけられる複合単元である。

説明文『めぐる輪』の中で生きる、「魚を育てる森」は、いずれも人間の暮らしと自然環境との関わりをテーマとした内容である。「読むこと」の学習の中で、現実に行っている問題にふれ、課題を見つけるのに適しており、目的意識をもって「書くこと」の学習につなげられる教材である。

本時で扱う「魚を育てる森」は、例が具体的であり、主張がはっきりしている。海の生物と森の密接な関係を例にあげながら、自然界は微妙なバランスを保ちながら互いに関係し合って存在しており、私たち人間が自然の状態をよく知って、バランスを壊さないようするべきであることを主張している。また、文章構成がしっかりしており、「序論」「本論」「結論」からなる文章の構成、科学的・論理的な説明の仕方を学ぶことができる。

しかし、生徒にとっては、科学的な専門用語等難しい語句も多く、辞書や注釈、補助教材等を活用し、学習の流れをスムーズにする手立ても必要である。また、意見文を書く活動では、関連図書や新聞の切り抜き等を活用させたい。

(2) 生徒観

全体的に真面目で、課題に対して真剣にじっくり取り組むが、受け身的で、意見を発言しながらない生徒が多い。国語は、学習の仕方がわかりにくく、家庭学習で取り組みにくいというのが多くの生徒に共通した考えである。

説明的文章の学習は、1学期に「二 自然の不思議を探る」の単元で行っている。教材「海の中の声」では、文章に即して内容を把握しながら、要約をしたり、表現技法を学んだりした。教材「クジラたちの音の世界」では、段落毎に要点をつかみ、限られた字数の中で要旨をまとめるという学習を行った。要旨をまとめる際には、文章の構成も意識させた。「読む能力」として、要点を見つめられる生徒は8割程度、「書く能力」として、構成を意識して要旨をまとめることができる生徒は7割程度である。

他に「書くこと」の学習としては、物語の読み取りのまとめとして感想を書いたり、表現技法を使って短作文を書いたりした。書くことにはあまり抵抗がない生徒が多く、学習した表現技法をすぐに使ってみようとする意欲のある生徒も多い。しかし、文法的な間違いや、不適切な表現も多く、今後、文法的な力や、語彙力を高める必要がある。

「話すこと・聞くこと」の学習としては、スピーチを二度、話し合い活動を一度行った。スピーチのように、事前に準備した場合、7割ほどの生徒がおおむね満足できる結果だったものの、話し合い活動となると、4割程度しかいない。

(3) 指導観

説明文教材が少なくなっている現状の中で、説明文を読む能力の基礎・基本を精選し、学習を着実に積み上げ、他の説明文を読む時に生かせる確かな力を身につけさせたい。

また、本単元では、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の学習活動を関連づけ、総合的な能力を身につけさせたい。特に今回は、「読む能力」を「書くこと」の学習に生かすという二つの領域の関連に重点を置き、互いの学習活動をつなぐ基礎・基本を明確にし、生徒がわかった

と実感し、学習したことが生徒の中に生きた力として身に付くように指導したい。

そのために、次のことに留意して単元を構成した。

本単元への意欲を引き出すために、「『めぐる輪』の中で生きる」を先に学習し、「めぐる輪」と呼ばれる自然のつながりに興味、疑問をもたせる。単元を通して「めぐる輪」つまり「自然のつながり」をテーマにして学習を進める。

説明文で身につけるべき力を「文章の構成をとらえる力」「文章を要約し、要旨をとらえる力」「わかりやすく伝えるための表現の工夫を見つける力」に絞る。

意見文を書く学習では、「読むこと」の学習活動と関連させ、「構成を意識して意見文を書く力」「伝えたいことがはっきりわかる意見文を書く力」「わかりやすく表現を工夫して意見文を書く力」を身につけさせる。

「読むこと」「書くこと」の学習活動で学んだことの中から、話し合い活動につなげられるものを明確にし、実際に話し合い活動の中に生かす。

3 単元目標及び評価規準

	単元目標	評価規準
・ 国語 意欲への 態度 関心	自然や環境について関心をもち、自分との関わりを考えながら、進んで文章を読んだり、表現したりしようとする。	自然や環境について、自分との関わりを考えながら文章を読もうとしている。 自分の課題を見つけ、進んで調べたり、話し合いに参加しようとしたりしている。
話す ・ 能 聞 力 く	話し合いの話題や方向をとらえ、自分の考えを理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりできる。(エ・ア)	自分の立場や考えを明確にし、聞き手に的確に伝わるように話している。 話題に沿って発言したり、友達の発言を的確に聞き取ったりしている。
書 く 能 力	身近な生活や学習の中から課題を見つけ、材料を集めて、伝えたい事実や自分の考えを明確にした意見文を書くことができる。(ア・イ) 学習したことを生かし、適切な構成で意見文を書くことができる。	課題を見つけ、それに合った材料を集めて、文章に生かしている。 調べてわかったことと、自分の意見とを書き分けて意見文にまとめている。
読 む 能 力	内容を把握しながら、文章の構成や展開を正確にとらえることができる。(ウ) 要旨、筆者の考えをとらえ、自分のものの見方や考え方を広げることができる。(エ・オ)	文章の構成を正確にとらえている。 各段落の要点をつかみ、要旨をまとめている。 筆者の考えを理解し、ものの見方や考え方を広げている。 課題を調べるために必要な情報かを判断しながら資料を読んでいる。
知 言 語 ・ 理 つ 解 い ・ て 技 の 能	多様な語句について理解を深め、辞書的な意味を文脈の中でとらえ直すことができる。(ウ・イ) 指示語や接続詞などに注意し、文章の中の段落の役割、文と文との接続関係などを考えることができる。(オ・エ)	語句の意味を辞書で調べ、文脈にそってとらえている。 指示語や接続語及びこれらと同じような働きをもつ語句を見つけている。 段落の役割や、文と文との接続関係に気づいている。

4 単元の指導計画と評価規準（13時間扱い）

次	時間	指導計画	評価規準
第一次読むこと	1	単元全体の学習の見通しをもつ。「『めぐる輪』の中で生きる」を読む。図示しながら前半部の内容を読み取る。	新しい単元に意欲的に臨もうとしている。図示の仕方を理解し、進んで取り組んでいる。
	1	具体的な事例と筆者の考えを区別しながら、後半部の内容を読み取る。文章の構成をとらえる。	文章の要点をつかんでいる。事例と筆者の考えを区別し、文章の構成をとらえている。
	1	「魚を育てる森」を読む。音読練習をする。	「めぐる輪」を意識しながら、進んで読んでいる。
	1	二つの問いとそれぞれの答えの部分を確認し、文章の構成を予想する。問題提示1の部分を、図示したり説明したりしながら読み取る。（本時）	問いに対する答えを、根拠を明確にして見つけ、要点をおさえてまとめている。
	1	問題提示2の部分を「海の生物を守る働き」「海の生物を育てる働き」に分け、図示したり説明したりしながら読み取る。	問いに対する答えを、根拠を明確にして見つけ、要点をおさえてまとめている。
	1	筆者の考えをとらえ、文章構成を再確認する。身近な生活との関わりを考える。	文章に即して筆者の考えをとらえ、まとめている。
第二次書くこと	2	自分の課題をもって、関連図書を読み、「めぐる輪」に関して情報収集する。	図書室等から自分の課題解決のために必要な資料を選び、情報収集している。
	1	集めた情報を整理し、「めぐる輪」に関する意見文の構想を立てる。	自分の考えを的確に表すために適切な材料を選び、構成を工夫している。
	1	事実と意見を区別し、文章構成の明確な600～800字の意見文を書く。	事実と意見を区別し、構成や伝えたいことが明確な意見文を書いている。
第三次話聞	1	意見交換の準備をする。	意見交換会のメモを作り、分かりやすい発表を心掛けて練習をしている。
	1	各自が調べた「めぐる輪」について、グループごとに意見交流する。	他の人の発表を聞いて、自分との違いを見つけ、疑問点を質問している。
	1	グループ内でどんな意見交換をしたかを確かめ合い、学習のまとめを書く。	グループの代表者の発表を聞き、自分の考えを深めている。

5 本時の指導（4 / 13）

（1）授業の構想

二つの問題提示文とその問題の答えとなっている部分を見つけ、その一つ目の問いの答えを、要点をつかんでまとめる、ということが本時の学習内容である。文章全体を概観したり、要点をつかむ力を身につけさせたい。問題提示文は文末表現に注意しながら、答えの部分はキーワード「役割」等に注意して、見つけさせている。

学習形態としては、ペアやグループの活動を取り入れ、変化をもたせる。また、学習方法としては、文章の要点をとらえるために、図示する活動を取り入れ、生徒に、読む力を目に見えるものとして実感させながら力を伸ばしていきたい。自力解決が難しい生徒には、机間指導の際にアドバイスしたり、ヒントカード与えたりして解決させる。

この文章は難語句が多く、長いので、文を切らずに読んだり、全体を見わたして構成を把握しやすくしたりするために、一文改行教材を準備した。

(2) 目標

二つの問題提示文とその答えに当たる部分を見つけて内容をおおまかにとらえ、問題提示1の答えを読み取ることができる。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点	具体的評価規準と評価方法
導入 (3分)	1. 本時の課題を把握する。 課題 文章のまとまりを考えながら、筆者の主張を読み取ろう。	・家庭学習として、前時に二つの課題を与えておく。大きなまとまりに分ける。問題提示文を見つける。	
展 開 (44分)	2. 文章のまとまりの予想を発表する。 3. 全文を音読する。 ・微音読 4. 二つの問題提示文を確認する。 5. 問題の答えとなっている部分を見つける。 (1)個人で考える。 (2)全体で解答を確認する。 【問題】 【答え】 形式段落 形式段落 ~ 形式段落 形式段落 ~、 6. 問題提示1の答えの部分を読み取り、図に表したり、説明したりする。 (1)個人で、要点を図示する。 (2)キーワードを確かめながら内容を確認する。 ・なぜ砂漠となったのか。 ・なぜ針葉樹林帯となったのか。 【キーワード】 ・開拓農民 ・移住 ・森林伐採 ・砂漠 ・緑化事業 ・クロマツの防砂林(コンブ、魚)	・課題を意識して読ませる。 ・問いの文の形に気づかせる。なぜ~か。 ・見つけにくい場合、問題提示1については、「砂漠」「クロマツ」を、問題提示2については「森の役割」という言葉に着目させる。 ・問題提示2の答えの部分は、次時に確かめる。 ・板書にも、問題提示と答えの段落を整理し、まとまりを意識しやすくする。 ・キーワードに線を引きながら読み、ノートに図を書く。 ・図示する活動が内容の把握に結びついていることを意識させる。	二つの問題提示文と答えを見つけ、それを手がかりに文章のまとまりの予想を立てている。問題提示1の答えを自分なりの図示で読み取っている。 Aの具体的姿 ...二つの問題提示文と答えの部分を見つけて文章のまとまりをとらえている。問題提示1の答えの要点を、キーワードを6つ入れて図示している。 Cへの手立て ...問いの文の形を確認し、問いを見つけさせ、ヒントカードを基に答えの要点をつかませる。 [観察、プリントへの書き込み、発言]
終末 (3分)	7. 学習したことを確認する。 ・問題提示文を手がかりに、文章のまとまりについて、予想を立てた。 ・問題提示1の答えについて、図示しながら内容を把握した。 8. 次時の学習内容を確認する。 ・問題提示2の答えを読み取る。	・説明的文章の読み方について、ポイントを確認する。	